

新支部長ご挨拶



鹿沼支部長
渡邊千春

鹿沼支部の皆様の協力のもと懸命に選挙活動に取り組む事ができました。「何か何でも石田さんを当選させたい」という熱い思いを強く持ち、活動に励みました。結果、石田さん当選、バンザイ！！石田さんが当選された時には、私は精魂尽き果て熱を出して寝込んでしまいました。今後は体力をつけ、さらに連盟活動に励みたいと思います。

私は、上都賀総合病院の患者支援センター（PFM）に師長として勤務しています。管理業務の傍ら今年度がん相談員を取得し、がん相談業務を行い、また、医療メディエーターも勉強中です。

私の連盟活動歴は約5年を経過し、幹事として前支部長を精いっぱい支えようと、頑張ってきたつもりです。ですが、頑張つたのは気持だけで有意義な活動支援ができなかったと思います。そんな私が今年度支部長になり、その役割の大きさと責任の重さを痛感しています。幹事をしていたにも関わらず、わからないことが多い私に、連盟会長様はじめ役員の皆様にご指導いただき、



塩谷・塩原支部長
齋藤満寿子

平成25年度から栃木県看護連盟塩谷・塩原地区の支部長という大役に就任させていただきました。塩谷・塩原支部は、国際医療福祉大学塩谷病院と県医師会塩原温泉病院の2施設で連盟活動をしています。今年度は第23回参議院議員選挙の年であり、支部長としてどういった感じで選挙活動を進めていくのか不安な気持ちでスタートしました。

院内のなかで新人研修や看護部全体会を通して看護連盟の活動内容や看護の代表を国政に送ることで、看護師が働き続けられる環境を得ることができる等の説明を行った。また、施設連絡員との連携を図り、看護職

全体が政治への関心を持てるように働きかけていくことが重要な役割だと思いました。今回の選挙では、支部長として目標値まで達成することができませんでしたが、今後は栃木県看護連盟の皆々様にご指導いただきながら目標達成に向けて微力ながらも、支部長としての役割を果たせるように努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いします。



菅那支部長
薄井ゆかり

平成24年の11月より、菅那支部長に就任させて頂いています。長年看護連盟には入会していましたが、活動の中心は「看護職の代表を政治に送ろう」という事くらいの認識でした。いざ自分が支部の中心になって活動していく必要性ではないかと考えると、本当に私なんかが出来るのだろうか、という不安を抱えながら参加しております。

就任してまもなく参議院選挙があり、充分な活動内容ではなかったかもしれません、栃木県看護連盟の皆様の温かいご指導のもと、また支部役員の皆様の支援のもと、頑張ることが出来ました。そして「石田まさひろ」さん



社保・石橋支部長
柏 澄子

平成25年7月1日より山口久美子支部長より交替になりました社保・石橋支部長の柏 澄子でございます。皆様どうぞよろしくお願いいたします。今回支部長を拝命し責任の重さを痛感しております。看護連盟については、以前より関わってまいりましたが、知れば知るほど役割の大きさと必要性を感じております。看護職のおかれている環境を考えますと、看護職の地位、職場環境、給与面など様々な課題があり、改善・改革するためには多くの代表を国会に送ることが必要です。そのためにも看護連盟の役割は大きいと考えます。

支部長としましては、幹事・連絡員の育成をはじめ、若い看護職員に国会見学や研修会の参加を勧め、常日頃から看護連盟に興味を持ってもらえるような関わりをしていきたいと思います。皆様のご指導ご協力のもと日々努力してまいりたいと思います。

今後とも、どうぞよろしくお願いもうしあげます。



OB実行委員
中島珠實

OB会 真に豊かな社会を

石田昌宏さん、参議院議員当選おめでとう！！。何と嬉しいことでしょうか。

私たちOB会メンバー5名は、施設などを退職した看護職の方や、地域の方々に石田昌宏の支援を依頼してきました。その中で、肌を感じたことは老いた時、在宅で過ごすことによ不安だということでした。そのような時、石田さんは「小学校があるが如く、その数の訪問看護ステーションを設け、24時間の対応ができるシステムの構築をすることが僕の役割です」と、言っていましたよと説明をして歩きました。

「人の命と暮らしを守ることで、豊かな社会が作られる」と言うモットーを政治活動の中で、具体的な政策決定をすることに期待しましょう。

看護職一人ひとりが問題意識を持って発言し、現場の声を石田昌宏参議院議員に届け支援していきましょう。

青年部 選挙活動をとおして

私は、2013年7月21日20時10分、NHKの選挙速報に「石田昌宏当選」の文字に妻、そしてFacebookで全国の仲間と喜びを分かち合いました。

栃木県看護連盟青年部は、2011年にボリナビ実行委員会の活動から発足し、本年度は各支部に誕生した青年部委員と共に、初の選挙を戦い今回の結果を得ることができました。一方、冷静になり受け止めなければならぬと感じています。その理由に、前回の選挙では、野党での出馬で逆風にも関わらず、今回より多くの獲得数できたのはなぜか、今回の男性候補者は女性看護職や看護職以外の有権者には、どのような印象だったのか、ネット上の情報発信は投票行動に結びついたのかなどを分析し、次回の選挙活動に生かしていきたいと考えています。我々青年部委員は、今後も永続的に看護職の代表を国政に送り続けるために、各支部の若手リーダーとして、支部を盛り上げていくことが期待されています。この期待に応えられるよう、青年部委員の存在と活動を連盟会員に周知できるよう、活動を続けていきたいと思います。



青年部実行委員長 高木慎一郎